京都工芸繊維大学

氏　　名	てい　はるか **程　遥**
学位(専攻分野)	博　士（学術）
学位記番号	博甲第 897 号
学位授与の日付	平成 30 年 9 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科　デザイン学専攻
学位論文題目	**複合メディア環境における視聴者自身による映像コンテンツの現地化に関する研究――中国字幕組のファン・エスノグラフィ**
審査委員	(主査)教授　池側隆之 教授　並木誠士 教授　櫛　勝彦 准教授　三木順子

論文内容の要旨

本論文は，視聴者による映像コンテンツのテキスト翻訳・字幕付けなどの一連の作業，すなわち「ファンサブ（fansub=fan subtitled）」現象に注目するものである。特にこの論考は，中国における日本製アニメなどへの字幕作成を自発的に担う「字幕組」に焦点を当て，今日の複合メディア環境におけるそのふるまいの分析を通じて，正規供給者と視聴者の関係に留まらない，コンテンツ受容における多層的かつ相互作用的な情報コミュニケーション構造を明らかにするものである。

第一部である序章と 1 章では，本研究が依拠する主に情報文化学に関係する先行研究を列挙し，本論文で重要となる諸概念や用語の定義を行いながら，研究対象である字幕組を捉えるための枠組みを提示している。字幕組によって字幕が施されたコンテンツでは，それが背景とする日本の若者文化や物語世界が踏まえる文脈をしっかり取り込んだ上で，中国国内での「現地化」が図られる。現在誰しもが簡単に映像制作を実践できる環境が整う中，一般の，主に個人の作り手が生み出すコンテンツが UGC（user-generated contents）として注目される一方で，それと区別する意味から，字幕組による「現地化」すなわち改変されたコンテンツを UMC（user-modified contents）として定義し，考察の出発点と位置付けている。

第二部である第 2 章と第 3 章では，インターネットがもたらした今日の情報社会において，日本製映像コンテンツの受容をめぐるコミュニケーション構造の整理を行いながら，正規供給者と視聴者という二元論的な関係を超えた，ますます複雑化する受容プロセスを字幕組の活動を例に明らかにした。具体的に第 2 章では，字幕組によるコンテンツのファイル共有問題を考察しコンテンツ流通の基本構造を提示した。ここでは主に P2P（Peer to Peer）ファイル共有過程の分析により，アップロードされたコンテンツをそれを欲するユーザーがダウンロードするという単純で直線的な流れとして捉えるのではなく，共有過程を経てファイルそのものは改変される（modified）プロセスを内包する様態にこそ本質があると指摘した。すなわちインターネット技術の特性である「大量蓄積／再利用」の典型が P2P には存在し，その構造は字幕組の活動の基本として認識されるものである。第 3 章では，前章での基本原理を踏まえ，コンテンツに新たな意味を積極的に

付与する字幕組の特徴を述べ，複合メディア環境においてコンテンツが大量に蓄積され，ファンの棲み分けにも発展していることを情報文化学の視座から解き明かした。さらに，ファンのコミュニティは単純で永続的なヒエラルキーを形成するではなく，いくつか重要な土台を共有しながらも，変形・変質を経て，オンラインで生態系に類似するものを形成している点を考察した。

第三部である第 4 章，第 5 章，そして第 6 章では，以上の議論を踏まえて，字幕組が関わった日本製アニメの視聴者と字幕組メンバーに対してインターネットを介してオンライン・エスノグラフィを実施し，その調査結果の記述・分析を行っている。まず第 4 章では，字幕組を考察するための方法論について議論している。字幕組が活動拠点とするインターネット上で，コンテンツ受容をめぐるコミュニケーションが様々な立場の参与者の間で行われている。本章では，文化人類学や社会学の種々の実践例を挙げながら，そうしたコミュニケーションから生まれる文化やそれを共有する人間の相互作用の意味を洞察・記述するには，オンライン・エスノグラフィの方法が有効であると指摘している。そして第 5 章では，オンライン・エスノグラフィのアンケート調査の結果と分析について記述を試みている。具体的には，オンラインでの参与観察を経て，中国の字幕付きコンテンツの利用者層が主に活動するウェブサイトあるいは利用するオンライン・サービスから，最も利用率の高い SNS のウェイボー（weibo 微博）に注目し，それを介してアンケート調査を行った。また，コンテンツ受容を経た利用者層の態度変化等を把握するために，記述式のアンケート調査も並行に実施した。調査の結果，字幕組コンテンツの受容を軸に個々の関心に応じた視聴方法を選択的に体得しながら利用者あるいはファンは成長し，棲み分けも行っていることを指摘した。最後に第 6 章では，字幕組メンバーへのインタビュー調査の結果と得られた「語り」のデータを対象とする質的分析を行っている。字幕組が扱うコンテンツの種類及び活動理念に注目すれば，大まかに「共有文化系」から「ファン文化系」までという尺度があることが明らかにされた。基本的に，共有文化系は映像制作や翻訳における技術と知識を含めて共有し，コミュニティ間ないしグローバルなネットワークも構築する傾向が見られる。対して，ファン文化系は比較的に閉鎖的で，コミュニティ内の内輪ルールを設定し，コミュニティ間の衝突も多い傾向が分かった。この二つの特徴は，2010 年前後に中国国内において始まった日本製アニメの公式配信の時期を境に，世代間で顕著に確認できる字幕組の態度であることが解き明かされた。以上の考察をもとに，このように「公式」の存在と常に隣り合わせで発展あるいは変容してきた字幕組に見られるその活動の特性を本論文では，①オリジナルから現地化という改変の試み，②字幕組コンテンツ利用者が態度変化を自覚する手段，③利用者が受けいれた新しい態度がもたらすさらなる変化への土台，と捉えることができると指摘した。そしてこの 3 点は，経済的な論理の枠組みからは見過ごされてきた，インターネットを中心とする複合メディア環境におけるコンテンツ消費の多層性と相互作用性を示唆するものであり，長きにわたり産業構造に組み込まれた「専門家」にのみ許されてきたコンテンツの解釈及び制作が個人にも許容されるようになった今，コンテンツの現地化をめぐる多様性と意味を理解することが，コンテンツ制作プロセスはもとより産業における新たなコンテンツ流通の検討においても不可避であると結論づけている。

論文審査の結果の要旨

本論文は，字幕組の活動の分析を通じて，コンテンツを介した送り手と受け手の間に成立する

コミュニケーションを単純な直線構造として捉えるマスメディアの時代から，ソーシャルメディアが隆盛な今日において確認できる多層的かつ相互作用的なコミュニケーション構造へのダイナミックな社会変容を論じるものである。従来コンテンツ消費のグローバル化において議論されてきた「ローカリゼーション」とは輸出先の文化に合わせることであるのに対して，字幕組の「現地化」は輸出元の文脈の再現を翻訳において忠実に行うことである。すなわち本論文の第一の特徴は，グローバルとローカルの間における翻訳行為そのものの位置付けについて問題提起した点である。さらに本論文で考察された中国の字幕組に代表されるファンサブ活動からは，コンテンツ受容の多様性を受け入れる性格が見出された一方で，コンテンツの「現地化」は必ずしも産業化の枠組みに収まらない現状を改めて露呈させたと言える。すなわち日本製のコンテンツが中国などの諸外国において紹介され，視聴されることは本来コンテンツ受容をより多角的に検討する契機と捉えるべきであるにもかかわらず，これまではしばしばコンテンツの所有権を中心に議論がなされてきた。そのためファンサブは映像翻訳の「専門家」として認識されず，「利用者」を主体とする「現地化」の問題が矮小化される傾向にある。送り手と受け手の二分法で社会のコミュニケーション構造を説明することはもはや困難であり，コンテンツ消費に関わる当事者らは，時に生産側の立場を取りながら，場面毎に様々な役割を担うようになっている。またコンテンツとメディアはこれまで不可分かつ固定的な関係で捉えられてきたが，本論文の第二の特徴は，コンテンツそのものがファンサブの関わりにおいて消費の対象から再生産・再利用のメディアとなり得ることを指摘した点である。コンテンツをめぐる当事者間の相互作用はもとより，コンテンツがメディア化することで新たなテクスト生産が行われ，さらにそれがメディア化するというコンテンツ生成の無限ループは真正性の問題を伴いながらも，徐々に展開されつつインターネットをベースとする映像コンテンツの新たな商業利用への地平を理論的に切り開くものであると言える。すなわち本論文は，インターネットを軸とした複合メディア環境におけるグローバル性とローカル性の間を行き来するコンテンツ生産と消費の関係を，情報文化の観点から理論化したという点において，革新への重要な一つの道筋を整えるものとして評価に値する。

以上の評価から，審査員は全員一致して，本論文が博士学位論文として十分にその水準に達していると判断した。

なお，本論文の一部は，いずれも申請者の単著である 2 編の査読付論文として，すでに公表されている。

①程遥「P2P ファイル共有のコミュニティと秩序―字幕組のファイル配布を題材に―」
情報文化学会『情報文化学会誌』第 24 巻第 2 号，pp.19-26，2017 年

②程遥「ファンによる受容空間の開拓―字幕組アニメ受容がもたらしたもの」
社会芸術学会『社藝堂』第 4 号，pp.99-120，2017 年